

「日式建築」の魅力講演

広島 台湾に残る和洋混合など

台湾友好ひろしまネット
ワーク（山本靖雄代表世話
人は11月29日、広島市中区
大手町、サテライトキャン
パスひろしまで講演会「台
湾の日式建築の魅力」懐か



台湾に残る日式建築物について説明する渡辺さん

しさとエキゾチックのあい
だ」を開き、1級建築士で
尾道市立大非常勤講師の渡
辺義孝さん(52)(千葉県習
志野市)が、約50人に日本
統治時代(1895～19
45年)の建物の総称・日式
建築について話した。

渡辺さんは、日式建築に
は純和風だけでなく、洋館、
和洋混合・折衷などの様式
があると説明。高温・多湿、
シロアリ対策で基礎の高さ
が60～70センチあり、日本の約
45センチに比べ高い点や、大き
い屋根を支える骨組みとし
て太い木材を使わなくても

いろんな方向に結合し組み
合わせた「トラス」技術が
多用され、現地大工が戦後、
小学校を日式で造ったと
し、日本の建築教育を反映
していると話した。

日式建築に対し、台湾人
の50歳代以上は懐かしさ、
40歳代は豊かさ、20歳代は
安心感を感じているとし、
所有者の承諾なしでも暫定
古蹟に指定する保存施策も
解説。尾道市で空き家再生
プロジェクトに関わる渡辺
さんは、日本ではJR尾道
駅裏などわずかに残る2世
帯向け「ニコイチ」長屋など
が台湾に残っているとし、
「尾道でも古い建物を残し
再生したい」と台湾を参考
にしたいと希望を語った。